

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点

第1回ネットワーク型学際研究シンポジウム開催報告

東京大学情報基盤センター

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点では、ネットワーク型拠点の特徴を生かした複数拠点型の共同研究を推奨し拡大することを目的とし、3月11日（火）に「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第1回ネットワーク型学際研究シンポジウム」を東京大学弥生キャンパスフードサイエンス棟中島董一郎記念ホールで開催し、49名の参加者（大学34名、独法等研究機関5名、企業他10名）を迎えて盛会のうちに終わった。

開会にあたり青柳睦 課題審査委員長（九州大学情報基盤研究開発センター長（当時））による主催者挨拶があり、当拠点と同様に文部科学大臣の認定を受けている大学附置研究所のネットワーク型共同利用・共同研究拠点である物質・デバイス領域共同研究拠点より 永島秀夫 九州大学先導物質化学研究所前所長および 小口多美夫 大阪大学産業科学研究所所長補佐の2名を迎え、拠点の設立経緯や位置付け、現在の活動状況や連携課題の実績についての招待講演を賜った。

続いて、当拠点の平成25年度採択課題においてネットワーク型の研究を行う課題代表者として、森田裕史（産業技術総合研究所）、深沢圭一郎（九州大学）、東田学（大阪大学）、棟朝雅晴（北海道大学）の4名から、研究課題紹介のほか、各拠点の役割や得られた相乗効果、連携課題を推進する上での工夫点や難しい点などについて発表が行われた。

その後、発表者に青柳課題審査委員長を加えた7名をパネリスト、柴山悦哉（東京大学情報基盤センター）をコーディネーターとして、ネットワーク型研究の目指すものと題したパネルトークを行い、共同研究の運営側と参加者側から異なる視点での立場を超えた活発な議論が交わされた。

最後に閉会にあたり高井昌彰（北海道大学情報基盤センター長）より挨拶があった。



シンポジウムの様子